

1997年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度場ではロシア西部、極東地域、北太平洋東部、北米大陸東岸を負偏差とする波数4の偏差パターンが顕著であった。半旬ごとに見ると7～8月の2か月間持続していたスカンジナビア半島付近のブロッキング高気圧が当月第1半旬までに解消した。かわって第2半旬からは中央シベリアにブロッキング高気圧が現れ、月の終わりまで継続した。亜熱帯ジェットは北太平洋から北米大陸にかけて蛇行が顕著だった。

一方、熱帯の対流活動は160°Eより東で平年より活発となり、インド洋からフィリピン東方沖、ニューギニア島にかけて不活発となった。

SOIは-1.4となった。

世界の天候

① 中国南部の低温

東アジアでは月平均気温が平年を下回るころが多く、特に中国南部ではかなり低くなった。

② マレーシアの高温

③ タイ・マレーシアの少雨

④ インド南西部の高温

⑤ パキスタンの少雨

アジア南部ではインドシナ半島北部を除き月平均気温が高くなった。パキスタンやタイ、マレーシアなどでは月降水量が少なく、インドネシアの森林火災による煙害は周辺5か国に広がったと伝えられた。

⑥ ウクライナ・トルコ付近の低温

ウクライナやトルコなど中東の一部で月平均気温が低く、トルコのアンカラで16.0°C(平年差-2.3°C)となった。

⑦ ヨーロッパ西部の少雨

⑧ アフリカ北部沿岸の多雨

⑨ アフリカ西部の高温

アフリカでは月平均気温の高い所が多く、特に西部でかなり高くなった。エチオピアやタンザニア、マラウイなどで月降水量が少なく干ばつの影響が報じられた。

⑩ 南アメリカ北部の高温

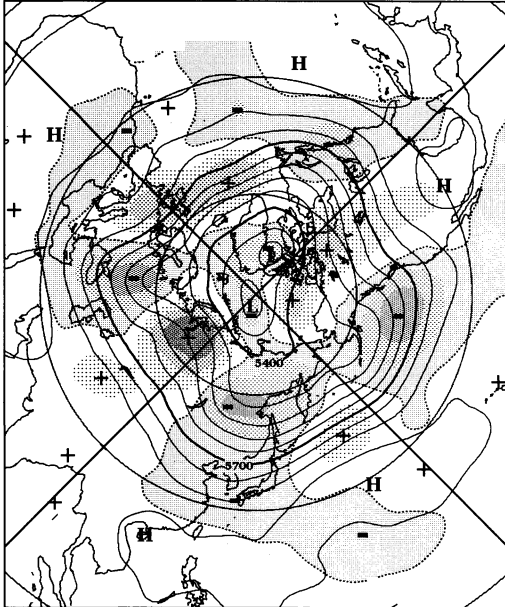
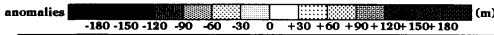
⑪ 南アメリカ太平洋側の高温

南アメリカの月平均気温はアルゼンチン南部とウルグアイで低く、その他の地域では高くなった。

⑫ オーストラリア中部の高温

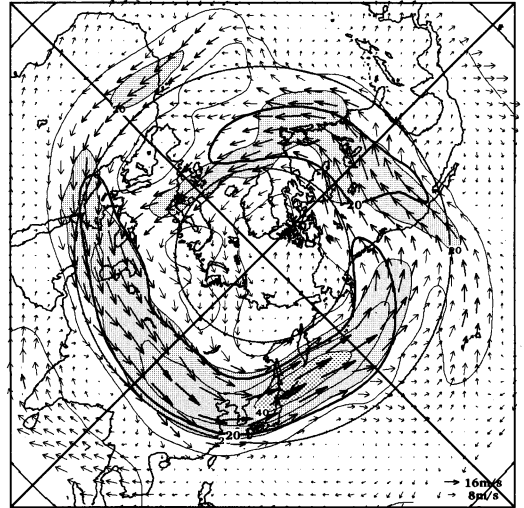
オーストラリアの中部や東部で高くなった。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 神野正樹)



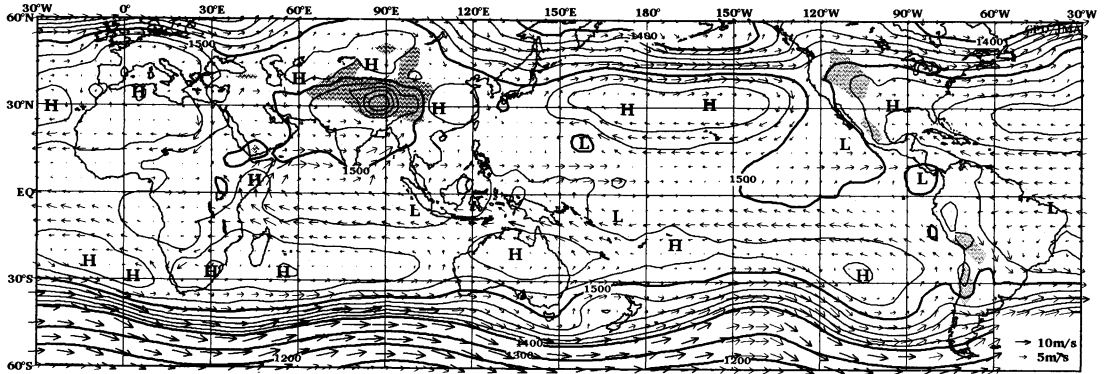
1997年9月の北半球月平均500 hPa高度および平年偏差

等値線間隔, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1961～1990年のデータに基づくもの。

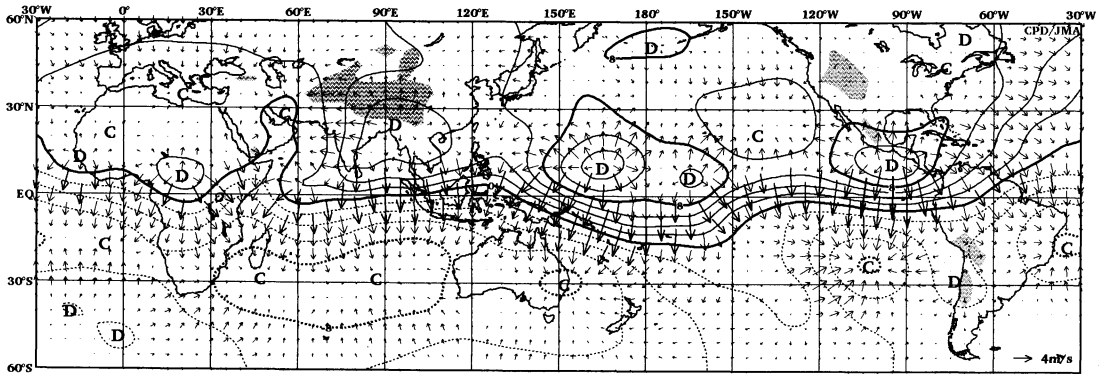


1997年9月の北半球月平均200 hPa風速および風ベクトル

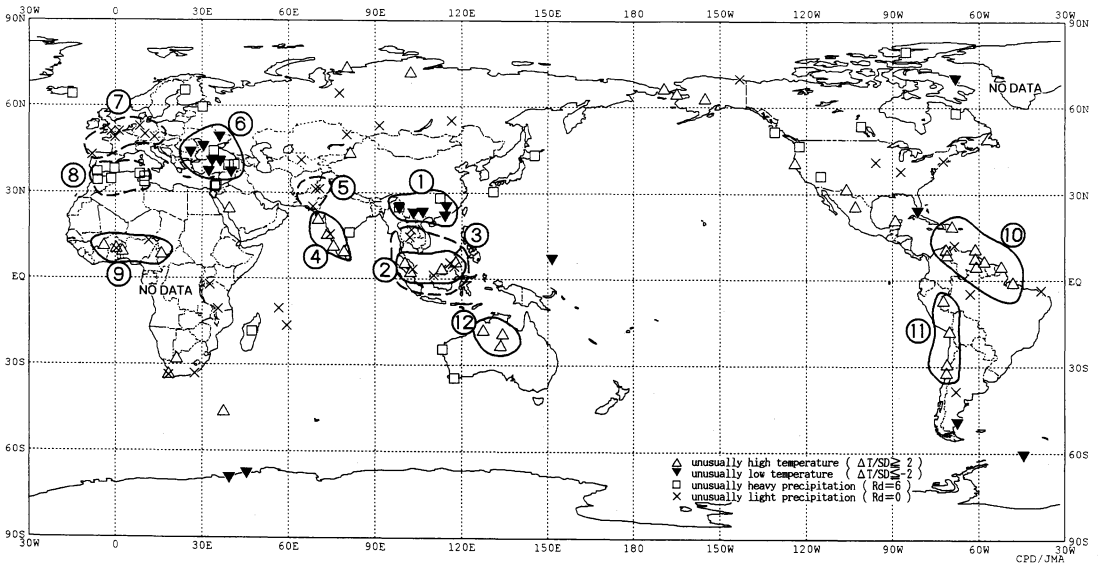
等値線間隔は10 m/s. 陰影部は平年で20 m/s以上. 平年値は1979～1996年のデータに基づくもの。



1997年9月の月平均850 hPa高度および風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 mまでは100 m)



1997年9月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1997年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.